

課題研究における効果的な学習法

ー コンクール出展を活用して ー

千葉県立〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇 (家庭科)

1 はじめに

本校の「課題研究」は情報、被服、食物の中から自分の興味ある内容を一つ選択し、1年間かけて学んでいくというものである。平成19年度に本校に着任し「課題研究」を担当した当初、何をどのように指導したらよいかかわからず、悩んだ。文字通り、授業内で「自らが選んだ課題を解決するために試行錯誤」すればよいのであるが、生徒がそれぞれ異なる内容を学習しているので思うように指導することができなかった。それを改善するために次年度以降は、全国家庭クラブなどが主催する「お料理コンクールに応募する」ためのレシピ作りを授業に取り入れ、展開した。教員側が準備した課題ではあったが、生徒の反応は良く、熱心に取り組んでいた。授業の中で、試食し、反省・改良し、次の試作に活かそうと努力している生徒の姿を見て、家庭科の目標とする「plan-do-see・・・」という課題解決学習の効果を改めて実感した。課題研究の学習を通じ、生徒が自ら気がつき、私たち教員が想像もしないような自由な発想で課題を解決する力が育つのではないかと考えた。そこで、本研究では、コンクールに応募するという課題から、生徒が主体的に学習を進める課題解決学習を行い、授業を通じ、生徒が自ら気がつき、解決していくことを習慣化させるとともに、生活の質の向上と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目標とし、授業を展開していくこととした。

2 研究計画

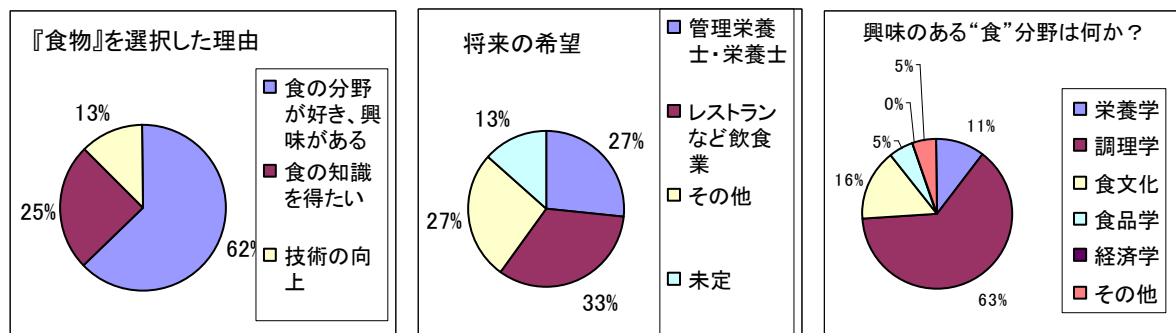
- (1) 本校生徒の状況
- (2) 課題研究食物選択者の意識調査 アンケート調査とその結果
- (3) 指導計画(平成21年度)
- (4) 指導内容の研究と実践例(平成21年度)
- (5) 事後アンケートと考察

3 研究内容

(1) 本校生徒の状況

本校は、明治33年に設立され、長い歴史と伝統を持っている。敷地内は緑が豊かで、女子生徒がのびのびとした様子で学校生活を営んでいる。生徒の特徴は「何事にも一生懸命取り組む」ことで、文化祭、体育祭はもちろん、日々の授業や部活動に真摯な態度で臨んでいる。普通科では「家庭基礎」を2年次に履修し、3年次に選択で「フードデザイン(3単位)」を学び、家政科では1年次に「家庭基礎」「生活産業基礎」「被服製作」、2年次に「家庭情報処理」「被服製作」「フードデザイン」、3年次に「発達と保育」「被服製作(選択)」「フードデザイン(選択)」「課題研究(情報・被服・食物の選択)」を学習する。意欲的に取り組む生徒が多いが、生活経験が乏しく、実習することが「発見の場」となっている生徒が多い。

(2) 課題研究食物選択者の意識調査 (アンケート実施 H22年度3年生 16名)



本校の課題研究は、情報分野・被服分野・食物分野の3分野から各自の希望によって選択し、1年間学習していく。食物を選択した生徒の選択理由は、大きく3つに分類できるが、全体として食に対し興味のある生徒が集まっていることがわかった。また、管理栄養士やレストラン等の調理師として食に関係する仕事を希望している生徒が60%と高いことがわかった。その他の職種の内訳は保育士、学芸員、服飾関係、販売が各1名ずつであった。将来の職業としても食に関わる仕事をしたいと考えている生徒が多いことがうかがえる。また、興味のある分野を尋ねたところ、調理学が6割以上であった。通常の調理実習時も生き生きと作業しているので、この数字は予想通りであった。

(3) 指導計画 (平成21年度 課題研究 食物選択)

年間の指導計画 (3単位)

	学 習 項 目	指導上の留意点(指)・提出物(提)
1 学 期	◎コンクール (2つ) ・家庭クラブ主催 お料理コンクール(実践例1) ～家族とかこむわたしの自慢料理 身近な食材と小麦粉などを使って作る一品 ・千葉県歯科衛生士会主催料理コンクール ～健康かみかみ弁当 ◎女子高梅の作成 (家庭クラブ活動3学年合同)	・コンクールの趣旨を理解させる(指) ・今までの実習や知識、試作の反省を活かし作業させる(指) 【思考・判断】【知識・理解】【技能・表現】 ・問題点等がわかるよう実施記録簿を記入させる(提) 【関心・意欲・態度】 ・丁寧に応募用紙を記入させる(提) 【技能・表現】
2 学 期	◎学科内コンクール～女子高梅の加工(実践例2) “女子高梅を用い、女子高名物を作ろう” (班編成 レシピ作り 試作 改良 決定) ・発表に向けての準備 (パッケージ作り 発表スライド作成など) ・発表 (中間発表)・・・11月上旬 ・反省・改良・試作	・梅干しの特徴を考えさせる。また、試作し、改善点を考えさせる(指) ・問題点などがわかるよう実施記録簿を記入させる(提) 【関心・意欲・態度】 ・わかりやすいパッケージ・発表スライドを作成させる(指) 【思考・判断】【技能・表現】 ・相互評価 優れている点・改善点を必ず記入させる(指) 【思考・判断】
3 学 期	◎学科内コンクール・・・1月中旬(実践例2) ◎事後アンケート	・プレゼンソフトを用い、わかりやすく発表させる(指) 【技能・表現】 ・相互評価 (感想を含む) (提) 【関心・意欲・態度】【思考・判断】

1 学期…全国家庭クラブ主催，千葉県歯科衛生士会主催の 2 つのコンクールのレシピを考えさせ，実習を行う。

2・3 学期…グループ学習を取り入れ，学科内コンクールを行う。個人で学習を進める学習と，グループ学習で生徒の取り組みに違いがあるか検証する。

(4) 指導内容の研究と実践例 (平成 21 年度)

ア 実践例 1 1 学期 個人学習 (総学習時間 31 時間)

①家庭クラブ主催料理コンクールなどの説明 (第 1 時限)・・・Plan

	学習内容・学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学)・提出物(提)・評価の観点
導入 10 分	◎出欠席・本時の確認 ・1 学期の学習内容の説明 ・応募するコンクールの説明	・シラバスや記録簿を用い，1 学期の学習内容を確認する ・応募するコンクールの説明 ・過去の応募作品の写真を掲示し，コンクールの内容を理解させると共に，イメージを作らせる(指)
展開 35 分	◎レシピの検討	・料理の本やインターネットを利用し，家庭クラブ主催の料理コンクールに出展するオリジナルレシピを考えさせる。 ・実習の計画をたて，レシピを作成させる(提) 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 ・机間巡視し，質問に答えると共に，不安な点がある場合には確認する(学)
まとめ 5 分	◎実施記録簿の記入 ◎次回の確認	・実習時の持ち物の確認 ・本時の作業内容・次回の予定がわかるよう実施記録簿を記入させる(指) 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】

②家庭クラブ主催コンクール出展作品試作 (2 時間連続授業)・・・Do-See

	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学)・提出物(提)・評価の観点
導入 5 分	◎出欠席・本時の確認	・それぞれの作業の確認
展開 95 分	◎実習	・体得している知識や技術を活かし，課題に取り組みさせる(指)【技能・表現】 ・試食の後、改良点などを考えさせる(指)【思考・判断】 ・各実習台を回り，質問に答える(学)
まとめ 10 分	◎実施記録簿の記入	・本時の作業内容，試食の反省・感想を記入させる(指) 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】

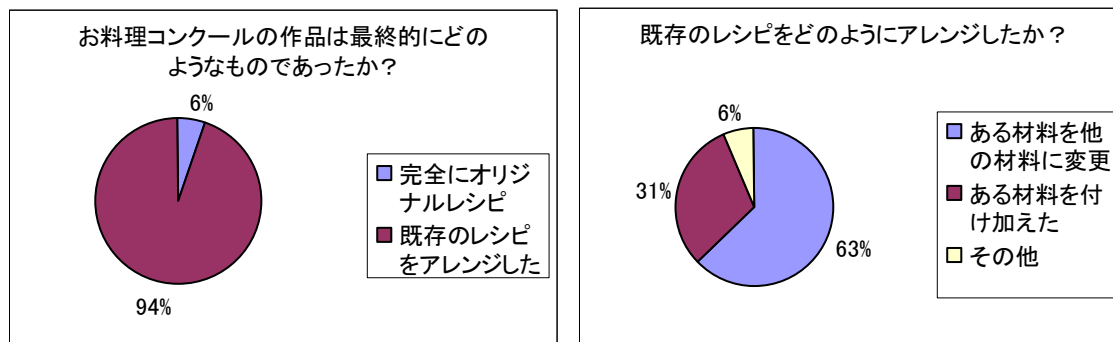
③家庭クラブ主催料理コンクール再検討 (1 時間)・・・Plan

	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学)・提出物(提)・評価の観点
導入 5 分	◎出欠席・本時の確認	・前回の授業の実習をもとにして，改善点を考えることを伝える(指)
展開 35 分	◎レシピの再検討	・前回の授業をもとに改善策を考え，レシピを手直しさせる(指)(提) 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】 ・机間巡視し，質問などに答える(学)
まとめ 10 分	◎実施記録簿の記入	・次回の実習時にどのように改善するのかわかるように記入させる(指)(提) 【関心・意欲・態度】 【思考・判断】

以後，出展作品が完成するまで指導案②③をくり返し，応募用紙も提出物として評価する。

イ 1学期の授業を終えて

1学期に実施した各コンクール（家庭クラブ主催「全国高校生料理コンクール」千葉県歯科衛生士会主催「健康かみかみ弁当コンクール」）に応募するレシピ作りの授業について、事後アンケートを実施した。



興味関心の強い生徒が集まっているため、どの生徒も意欲的に実習していた。事後のアンケートにおいて、コンクールに応募するレシピ作りの授業は興味を持って臨めたかを質問したところ、生徒全員が臨めたと答えていた。調理実習が好きな生徒が多いので、何度も試作をくり返し、友人同士で講評し合っていた。ただ、調理をすることは好きだけれど、思うようにアイデアが浮かばず、完全にオリジナルの作品を作る生徒は少なく、既存のレシピの材料を変更する、自分が加えたい食材に変更する、形態を変えるなどしていた。生徒の中には、「意外性」を求め努力する生徒や試作をくり返すうちに食品の意外な組み合わせに気がつく生徒もいた。例えば、桜エビやひじきの入ったパウンドケーキやカレー風味のシフォンケーキはこの頃流行している「甘くないケーキ」として、生徒の間で人気があった。コンクール応募レシピを創る中で「普段意識していなかったが、レシピの重要性を痛感した」「普段の料理の中でも工夫するようになった」などの感想があった。この授業を通じ、本校の生徒は、レシピがあれば料理を作ることができるが、レシピをアレンジする、新しいものを作り出すことは、生活経験が少ないためか苦手な傾向があるということがわかった。全般としては、生徒は生き生きと活動し、レシピ作りを楽しんでいた印象を受けた。



①学科内コンクール実施の説明 女子高梅を用いたレシピ作り (第1時限)・・・Plan

	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学)・提出物(提)・評価の観点
導入 25分	◎本時の確認 ・今学期の学習の説明 ・学科内コンクールの説明 ・コンクールの内容の説明 ～課題は“女子高梅”を用いて女子高名物を作ろう！ ・班編制	・実施記録簿記入の説明 ・グループ学習でオリジナルレシピをつくること、そのレシピをもとにして学科内コンクールを行うこと、学科内コンクールの課題は“女子高梅”を用いて“女子高名物”のレシピを作ることを告げる(指) ・加熱処理がなされ、安全な物を作ることを告げる(指) ・実施記録簿をもとにおおまかに、2,3学期の授業の流れを説明し、作業をイメージさせる。 ・1グループ3名程度のグループを作らせ、会社の商品開発をイメージさせ作業させる(学)
展開 65分	◎レシピ検討	・本やインターネットを参考にし、梅干しの味を活かし、オリジナルレシピを計画させる(指) 【関心・意欲・態度】【思考・判断】 ・班でいくつかの候補を出させ、その中で試作をする計画を立てさせる 次回の授業で実習する際に必要なものを把握させる(指) ・各グループを回り、質問などがあれば相談に応じる(学)
まとめ 10分	◎実施記録簿の記入 ◎次回の予告	・次回の計画がわかるように記入させる(指) 【関心・意欲・態度】【思考・判断】

実施記録簿

課題

毎時間の作業の内容・反省・感想と次回の子定を記入させる。次回の授業で「何をするのか」を誰が見てもわかるように記入させることにより、自分の作業を考えさせるのに効果があった。また、生徒が質問を記入することもあった。生徒の次回の動きを把握することもできた。→【関心・意欲・態度】【思考・判断】を評価

3年H組 8番 氏名		今日の作業内容	次回の予定	自己評価	検印
9	11	班を決めて、何ができるかアイデアを出し合った。次回に決める中から決めておきたいと思ってる。	試作 何を作るか! 計画的に作業をすすめて下さい。	5	金
	14	今日は、肉まんとおまんをそれぞれ作りました。肉まんはふつにおいしかったので、次回おまんを4人ずつ作りたいと思います。さらに生地をピンクにしたい。見た目がいいです。	反省点、改善できる点を考える	5	刀
	25	前回の授業で、おまんができたので、次は食料店でパンの生地を買い、クリームチーズを混ぜた生地を作りたいです。	→和酢つかたらどうしようか! おまん(こしあん、こしあん+クリームチーズ)	5	金
	28	今回クリームチーズを足したおまんがおいしかったので、今度はおまんを作りたいです。生地をピンクにしたい。生地を少し柔らかくしたいです。	クリームチーズ+おまん+うめー おいしかった。 反省点、改善点を考える	5	キ
2	2	今回は、フルーツを入れて、少し甘いデザートを作りたいです。おまんもまた少し入れたいと思ってる。どうしておまんがピンクの生地になるか。	おまん(フルーツ入り) →おまんにフルーツ	5	金
	8	今日はフルーツ入りのおまんを少し作りました。フルーツが入ると生地が少し柔らかくなるので、生地を少し柔らかくしたいです。	完成レシピを書き出す。パッケージを考える 作りたいレシピ、どうするか	5	金

②女子高梅を使ったレシピ作り（2時間連続授業）

Do-See-Plan-Do-See・・・

段階	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学)・提出物(提)・評価の観点
導入 5分	◎出欠席・本時の確認	・各班の実習内容の確認, 道具の準備
展開 95分	◎実習 ◎試食 ◎反省・改善策の検討	・梅干しの酸味や塩気を考慮させ, 塩抜きなどを助言する(学) ・各実習台を回り、質問に答える(学) ・試食・反省し, 次回の目標がわかっているか。次回の試作にいかせるよう 班員で検討させ, 実施記録簿に記入することを整理させる(指) 【関心・意欲・態度】【思考・判断】
まとめ 10分	◎実施記録簿の記入 ◎本時の総括・次回の予告	・本時の内容・反省等と次回の内容などを実施記録簿の記入させる(指) 【関心・意欲・態度】【思考・判断】

～ 試食し, レシピの再検討を行い, 試食, 再検討する作業をくり返し, 最終的にレシピを完成させる。

③女子高梅を用いたレシピ作り（学科内コンクール中間発表）（2時間連続授業）

段階	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学) 提出物(提)・評価の観点
導入 5分	◎本時の説明 手順・順番の確認	・本時の作業がしやすい位置に, 班ごとに着席させる(スクリーンが見える位置に着席させる)(指)
展開 95分	◎プレゼンソフトを用いて各班のプレゼンテーションと評価 ・各自, 個人評価表の記入(発表班の評価) ↓ ・個人評価表を基にし, 各班で話し合い, 各発表班の改善点をあげる。 ↓ ・改善点をメッセージカード記入 ↓ ・メッセージカードの回収【以降繰り返す】 ↓ ・メッセージカードを参考に, 各班で再検討	・プレゼンソフトを用い商品を開発した担当者として発表させる(指) 【技能・表現】 ・評価表の記入を具体的に記入させる(提) 【技能・表現】 ・班員で協力し話し合いを進めさせる ・良かった点, 改善点をわかりやすく記入させる(指) 【技能・表現】【関心・意欲・態度】 ・今までの作品をより良くするためには, 何をしたらよいか各班で検討させる(指) 【関心・意欲・態度】
まとめ 10分	◎実施記録簿の記入	・次回の計画を立て, 記録簿の記入 【関心・意欲・態度】【思考・判断】



発表ごとに各自“個人評価表”に良かった点、悪かった点を記入させ、それをもとに、各班でメッセージカードを記入し、発表班へ

中間発表を実施したことにより、刺激を受けて内容が充実した。

④女子高梅を用いたレシピ作り（学科内コンクール）（2時間連続授業）

中間発表が終了した後、各班からのメッセージカードに記入されていることや、自分たちの反省点をもとにし、改善する時間を経て学科内コンクールを実施した。

段階	学習内容 学習活動	指導上の留意点(指)・学習支援(学) 提出物(提)・評価の観点
導入 5分	◎本時の確認	・コンクールの流れを確認する
展開 100分	◎発表 ・プレゼンソフトを用いて発表する ・自分たちで準備した物を用いて発表する	・各班の発表が終わったら、見学班は個人評価表に記入させる。必ずコメントを書くように指示する(指)(提) 【関心・意欲・態度】 ・各発表班は自分たちの発表についての反省・感想をプリントに記入させる(指)(提) 【関心・意欲・態度】
まとめ 5分	・次回の予告	・集計し、次回の授業で結果発表と表彰することを告げる。



学科内コンクールプレゼン風景
この班は、中間発表の後「インパクトがない」という反省を活かし、Q&A方式で説明した。
【まんじゅう班による発表】



発表に向けて試食作成中



試食完成品【ご飯ピザ班】

優勝チーム 女子高どらやき
中間発表から完成度が高く、この班に刺激されて本番の発表が全体的にレベルアップ。まさにこのコンクールの牽引役だった。

右は発表で準備した広告 →



特別賞チーム
生女子キャラメル



パッケージ



賞状

優勝
特別賞

賞状
優勝

G&P

学科内コンクールにおいて、上記の成績を認めましたので表彰いたします。

常に生き生きと作業に取り組みました。チームワークも絶妙で、その様子は『群羊集』のようでした。中間発表においては、中間発表とは異なるほど完成度の高いプレゼンテーションを行い、ほかの班に良い刺激となりました。授業全体の牽引役となっていたように思います。今後もこの学科で学んだことを活かし、充実した生活（真生活）を送ることを希望します。

千葉県立千歳女子高等学校 家政科
川島 和美 金内 佳子

賞状
特別賞

白井発地蔵

学科内コンクールにおいて、上記の成績を認めましたので表彰いたします。

生徒の創意工夫のしつこい生女子キャラメルは、パッケージも女子高生の個性溢れる、大変な人殺しの作風として素晴らしいです。その作りは、目にも心にも響くばかりです。生女子キャラメルは、生女子キャラメルです。また、中間発表からの発表が素晴らしく、とても印象に残っています。

今後もこの学科で学んだことを活かし、充実した生活（真生活）を送ることを希望します。

千葉県立千歳女子高等学校 家政科
川島 和美 金内 佳子

(5) 事後アンケートと考察

学科内コンクールが終了し、結果発表・表彰の後、生徒に事後アンケートを実施した（16名）。

ア 学科内コンクールの形式を取り入れたことについて

学科内コンクール

川島杯

☆ テーマ
～女子高梅をさらに加工し、女子高の名物を作ろう！！～

☆ 日時 中晩発表 平成21年11月9日（月）

☆ 会場 千葉県立千葉女子高等学校調理実習室

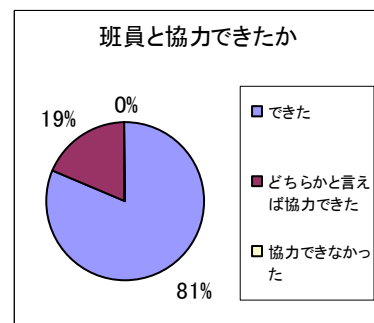
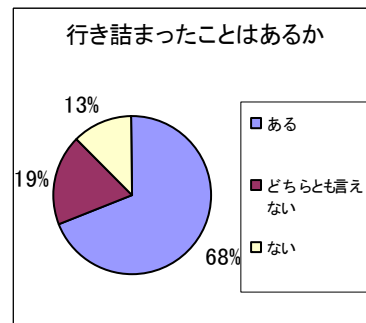
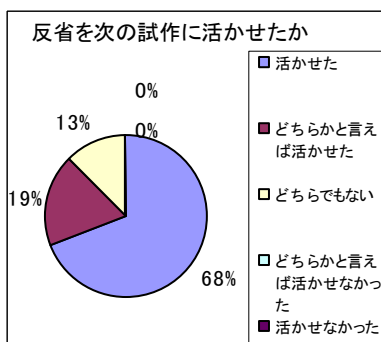
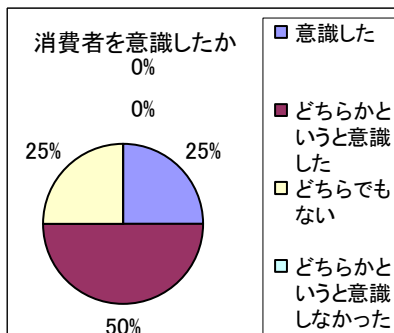
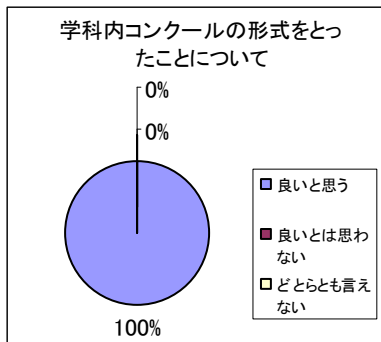
☆ 応募締切日 平成21年11月6日

☆ 応募資格
～千葉県立千葉女子高等学校の理科3年在校生し、調理実習の食物を選択していること。

☆ 応募規定 女子高梅を用い、万人に愛されること

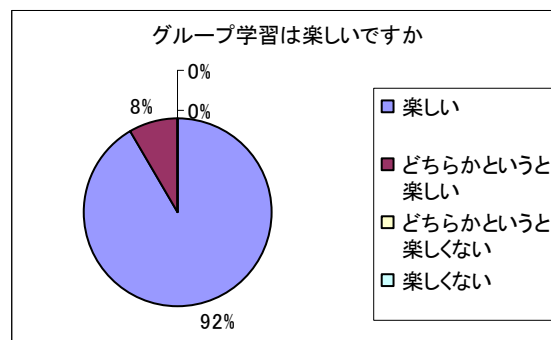
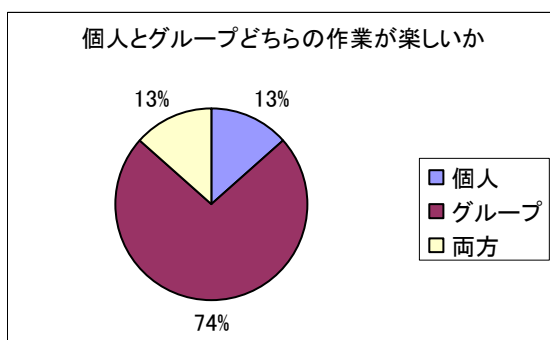
☆ 表彰
コンクール（3学期発表）後、賞を決定し、表彰
学科賞賞 1点
特別賞 1点

主催 千葉県立千葉女子高等学校 家庭科職員



2学期は学科内コンクールを行うことと、その課題は「女子高梅を用いて女子高名物を作ろう」というものであるということを告げると、「最近流行りの塩スイーツにできないか」と会話し、目を輝かせていた。コンクール終了後に実施したアンケートを見てみると、コンクール形式を授業に取り入れたことに対して、「やる気がわいた」「他の班の作品も見ることができた」「自分たちがどのように評価されるか楽しみ」など肯定的な意見を生徒は持っていた。そのことから学科内コンクールを計画することは、目的意識を持たせるうえで効果があったと思われる。また、計画的に作業することができる生徒は「計画し、試作・試食し、改善する…」という課題解決型学習の流れを自然と作りだし、楽しそうに作業に臨んでいた。生徒の多くは作業の途中で行き詰まりを感じていたが、そのつど班員と協力し解決していったようである。アンケートに「みんなで一つのことに向かって協力できた」という記載があった。結果として班員と協力し、切磋琢磨することができたのではないと思われる。

イ 個人学習・グループ学習について



グループ学習をするということで、生徒がどのような反応を示すか心配であったが、気心の知れた者同士、楽しみながら作業を進める姿が見られた。グループ学習を楽しんでいたということは、生徒に実施したアンケートの結果からも伺える。生徒は、グループ学習に対して肯定的な見方をしていることがわかった。グループ学習を楽しかったと答えた理由として、「みんなで解決策を考えることができる」「自分では考えつかないことを提案してもらえる」「協力できる」などがあがった。グループ学習のデメリットとして、「気楽さは個人が勝る」「全て相談しなければならない」「遠慮してしまう」「作業に偏りが出る」などがあげられていた。3年間クラス替えが無く、生徒同士がそれぞれの個性を理解していること、自分たちで班を作らせたこと、そして、何よりも生徒達の穏やかで思いやりのある性格が、グループ学習を円滑に進めた要因であると思われる。しかし、多くの生徒がグループ学習を楽しかったと答えているが、個人の作業が苦手、嫌いであるということではなく、1学期に実施した個人学習に対しても「責任感が出る」「気兼ねなくできる」「マイペースで作業ができる」などの利点を生徒は感じている。個人学習には「個人学習の良さ」を、グループ学習には「グループ学習の良さ」を生徒達はしっかりと感じている。

ウ 個人学習とグループ学習の比較

(16名中)

	個人学習			グループ学習		
	ついた	どちらでも ない	つかない	ついた	どちらでも ない	つかない
問1 基礎的・基本的な技術	13	3	0	12	4	0
問2 筋道を立てて考える力	11	4	0	15	1	0
問3 変化に気がつく力	13	3	0	15	1	0
問4 反省をいかす力	14	2	0	16	0	0
問5 判断する力	10	5	1	11	5	0
問6 問題を解決する力	13	3	0	13	3	0
問7 創造する力	10	5	1	13	3	0
問8 主体的に行動する力	11	5	0	13	2	1
問9 表現する力	10	5	1	13	3	0
問10 個性	6	9	1	11	5	0
問11 協調性	12	3	1	14	2	0
問12 言語活動・コミュニケーション	8	7	1	12	4	0
問13 責任感	12	4	0	14	2	0
問14 勤労観・職業観	9	7	0	15	1	0

最初から試作する回数を決めて取り組んだので計画的に作業できたと思われる

自分の得意とする分野を担当し、力を発揮したと感じているようである

班員に迷惑をかけないように責任ある態度で臨んだようである

個人学習中、試作をお互いに試食し合い、講評していたためと思われる

「商品開発」をイメージするように指導したためと思われる

個人学習とグループ学習で身に付いたと生徒が感じているものに差が生ずるか比較してみたところ、上の表のような結果が出た。

個人学習、グループ学習に共通して肯定的に捉えている生徒が多く、「身に付かなかった」と感じている生徒は個人学習もグループ学習も少ない。全体的にグループ学習の方を優位に感じている生徒が多かった。「主体的に行動する力」「表現する力」「個性」の項目は個人学習が優位

な数字を示すかと思っていたが、グループ学習が優位となったことは予想外であった。グループ学習では自分の得意な分野を「班員のために頑張る」という気持ちから、意欲的に臨むことができこのような結果となったと推測できる。「創造する力」については「三人寄れば文殊の智慧」ではないが、グループ内で話し合い検討する課題解決学習を繰り返した結果ではないかと考える。また、1学期に実施した個人学習時は、実習出来る回数を制限しなかったことで、中には作業に集中できない生徒がいた。そこで、グループ学習時は実習回数を事前に示した。回数を事前に提示することは、生徒が計画的に作業を進める上でとても効果があった。個人学習時も事前に実習することが出来る回数を提示（少なめに）しておけば、問2においてグループ学習と同じように「筋道を立てて考える力」が育ったと感じる生徒が多く見られたのではないかと思う。個人学習でも、他の生徒に試作品を試食してもらいお互いに意見交換したことで、協調性、言語活動、コミュニケーション能力の項目で「力がついた」と感じた生徒が多かったと考える。

エ 考察

個人学習、グループ学習のどちらにしても、コンクール形式を取り入れたことは、「動機付け」として、効果があった。また、計画→試作・試食→再検討→試作・試食・・・という一連の作業は家庭科教育が理想としている「課題解決学習」を作り出せることを改めて確認できた。教員側が準備した全員に共通した課題であったが、生徒は主体的に授業に参加し、自分たちで課題を解決しようと意欲的に取り組んでいた。個人学習、グループ学習において、コンクール形式を取り入れたことは、第三者に作品を評価してもらうことで生徒の意欲を高めることに効果があったと思われる。

評価に関してであるが、グループ学習の評価はなかなか難しい。全員が提出する共通の提出物（実施記録簿など）以外は悩むところであった。グループで学習を進める中で大人しい生徒は目立たなくなってしまう。アンケートにも記入されていたが、グループ学習時に「遠慮してしまう」生徒がいることも事実である。また、役割分担でたまたま苦手な作業が自分の役割となっていることも考えられるので、同じ評価が可能な実施記録簿の記入について随分細かく説明したつもりでいる。しかし、記入の仕方を見ても具体的に記入されていないものもあった。自立心の強い生徒からは、「実施記録簿の記入について自分に任せて欲しい」という意見もあった。実習などの作業時には各調理台やコンピューターを巡回し、声をかけ進捗状況や疑問点などを確認しながら生徒を観察したが、やはり主観が入ってしまうのではないかと心配であった。結果として、評価の割合としては、実施記録簿や提出されたレシピなどの提出物に重きを置く結果となった。

コンクールに応募するレシピ作りを取り入れた課題解決学習がスムーズに展開した要因であるが、やはり生徒の意識の高さが大きいと思う。そして、他の要因を考えると「生徒の計画性」があげられる。実施記録簿に記入する際、「今日の作業内容」「次回の予定」がしっかり記入できるかどうかということは、課題解決学習をする上で重要であったと思われる。生徒の主体的な学習であるから、まず生徒に「今日の内容（反省・感想を含む）」を記入させ、それを踏まえて「次回の予定」を各自で考えさせ、準備させることが大切であった。また、この実施記録簿は、指導する側も生徒の活動を掌握する上で役立ち、生徒からの質問にも個別に答えることができるので大変有効であった。実習中に質問しない生徒もいるので、実施記録簿に質問の項目を設けても良かったと思う。また、実施記録簿の記入項目を細分化することで評価もし

やすくなることも考えられる。グループ学習時にも同じ内容の実施記録簿を記入させていたが、実施記録簿の記入の仕方が曖昧な生徒は、班員に指示されるのを待つ傾向にあった。

生徒は、個人学習・グループ学習の長所・短所を理解し、その中で課題を解決していく姿勢を確立していた。グループで実施する課題解決学習を通し、協力する力や責任感、コミュニケーション能力以外にも得意な分野を自分が担当することができたからか、「個性」が育ったと多くの生徒が感じていることが、個人学習とグループ学習の比較をしたアンケートからうかがえる。また、グループ学習時には、グループの一員であるという自覚があり、班員に自分が必要とされている自覚している生徒が多かった。

まとめていて、今回の題材は、新教育課程のねらいを多く取り入れていたことに気がつく。まず、生徒の自発的・創造的な学習となる課題解決学習を取り入れる上で、1～2年次に食物に関する基礎的・基本的な知識と技術を身につけていることが前提となる。身につけた知識と技術を用い、課題を解決するために、自ら考え、実習を繰り返す中で工夫することで実践的態度を養い、第三者と意見を出し合い結果を導きだす。その結果を自分以外の人に示すために表現するというこの学習の流れは、思考力・判断力・表現力のトレーニングとなり、批評し合う、意見を出し合うことで他人と係わることでコミュニケーション能力が養われる。これらの力がついたことは、事後アンケートからうかがえる。課題研究を通して「生きる力」が身に付いていると感じた。また、グループ学習においても、皆のために自分が努力し結果を出そうとする。その姿にお互いが感謝し合うことで、それぞれが自己有用感を感じていたようである。「やればできる」という自信につながり学習意欲が高まったのではないと思われる。

4 終わりに

本校に着任したときの生徒の印象は「なんて素直な生徒なんだろう」であった。その素直さが可愛らしくもあり、正直心配でもあった。とても受け身の状態に感じたからだ。しかし、授業の中で、「さあ、コンクールに応募するぞ！レシピを考えよう！」と始めたところ、生徒はしっかり計画をたて、自分で試行錯誤し始めた。試作・試食・改善という個人学習でもグループ学習でも共通している一連の作業の中で、「先生、試食お願いします」と作品を持ってきて、私の感想を真摯に受け、改善する姿が思い出される。この真摯な姿勢は本校の生徒の特徴であろう。また、グループ学習時には、班員が真剣になりすぎてグループ内の雰囲気が悪くなることもあったが、自分たちで話し合いしっかり解決していた。本校の生徒だからこの「課題を与え、なるべく本人達に解決させる」スタイルでこの課題研究ができたのではないかと思う。一連の学習を通じ、たった1年間の課題解決学習であっても生徒が逞しく変化していくことを感じた。自分の力で試行錯誤していく、これは正に「生きる力」だと思う。彼女達には課題解決学習で学んだことを礎に逞しく人生を切り開いていてもらいたい。

最後になりますが、大変協力的であった平成21年度卒の家政科生徒と、様々な場面でサポートして下さいました先生方にこの場をお借りして御礼申し上げます。

- 参考文献 『ニューライブラリー家庭科』 (実教出版)
『栄養と料理』 (女子栄養大学出版部)
『今日の料理』 (日本放送出版協会)